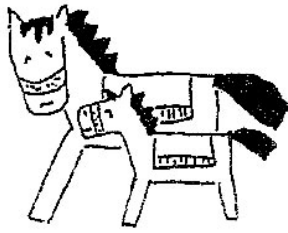


お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと



令和5年 6月 No. 343

〒760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松第二保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<https://oumanooyako.com>



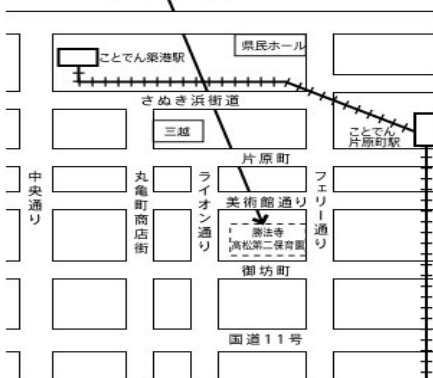
(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～			6月の主な活動	～お気軽にどうぞ～
6月	1日 15日	木	こうさぎおはなし会 15:00～16:00	いつ聞いても見てもおもしろいおはなし会です。 みんないらっしやい!
6月	2日 9日 23日	金	ヨガを楽しむ会 14:30～16:00	頭から手足の指まで寝たきりにならない ように刺激をして若返らせています。 どなたでもどうぞおいで下さい。
6月	16日	金	香川みずぶさんの会 14:00～16:00	災害や日常でも役立つパッキングを 池田奈央氏に指導していただきます。 (準備のため6/10締切)
6月	24日	土	おとなアート 14:00～16:00	個性的で世界でひとつのメタリックかぼちゃを 作ってみましょう。
6月	28日	水	自然の中の遊び体験 15:30～16:30	動物クイズで生き物の生態を知り、生き物の 動きや表情をジェスチャーで体験しましょう。
6月	13日 20日	火	体験保育 15:00～17:00	園のお友達と一緒に遊んでみませんか?

・火～土の9:00～18:00までは、園内開放して
いますので、親子でご来園下さい。
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談(月～土) 9:00～18:00
しつけや子育てについての悩み、保育園生活
入園・見学についての相談もどうぞ。

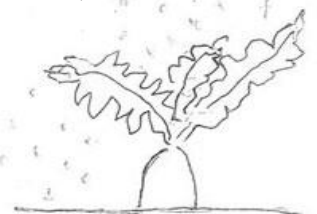
香川県高松市御坊町2-2
地域子育て支援センター



金子みずぶ童謡全集③
「空のかあさま・上」より

だいこ
大根ばたけの春の雨、
青い葉っぱの上の雨、
小さなこえで笑う雨。
大根ばたけの昼の雨、
赤い砂地の土にきて、
だまってさみしくもぐる雨。

はたけ
島の雨



☆今月の内容 — ・「子どもはあなたに大切なことを伝えるために生まれてきた」
・「お母さんを苦しめようとして生まれた子どもはいません」
池川 明 (産科医 池川クリニック院長)

今年で3回目で、当地では最後の池川明先生の講演会を開催します。今年はこのからの学校教育のあり方や子育てについてお話しいたきます。

先生のご著書からプロフィールもかねて少し本文をご紹介します。

「子どもはあなたに大切なことを 伝えるために生まれてきた」

(青春出版社)

著者：池川 明 (産科医・池川クリニック院長)

—子どもとともに親も育ちます—

教育とは、知識を詰め込んで「立派な」人間を育てることではありません。本来の子育ての目標は、子どもが独り立ちできる力をつけることであり、そのために自分で生きる方向を決められるようにすることではないでしょうか。

私はある本で、「教育の目標は、人が30歳でどれだけの生活力を持ち、生きがいを持って生活するに尽きる」という文章を読んで、これは子育ての核心を突いていると、目が開かれる思いをしました。

親はこれまでの自分の限られた体験から判断して、子どもに「これくらいは身につけないと」とさまざまな習いごとや勉強を勧めます。遠回りさせたくない、よけいな苦労はさせたくないという、ありがたい親心なのでしょう。けれど子どもが自発的に意欲をもって取り組まないかぎり、何事も本当の意味では身につけません。

最近、自分が何をしたいのかわからない若者が増えています。先回りしてさまざまな体験をさせるより、子どもの自発性をたいせつにする教育がたいせつです。

池川明 (いけかわ あきら)

1954年東京都生まれ。帝京大学医学部卒・同大学院修了。医学博士。

上尾中央総合病院産婦人科部長を経て、1989年横浜市に池川クリニックを開設。「体内記憶」の研究発表がマスコミで紹介され話題に。その成果を医療現場に生かし、母と子の立場に立ったお産と医療をめざしている。

『おぼえているよ。ママのおなかにいたときのこと』(二見書房)、『子どもは親を選んで生まれてくる』(日本経分社)など、著書多数。

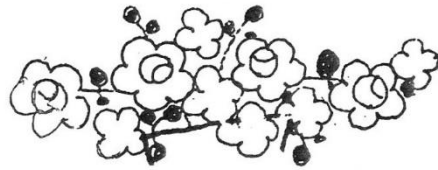
親が子どもを抱え込んでしまうのは、どこかで子どもを自分の所有物のように感じているからではないでしょうか。それは、「子どもをつくる」という表現にもあらわれているように思います。子どもは、つくるのではなく授かるものです。けれど、つくってできたのだと勘違いしていると、赤ちゃんが生まれた後も、まるで粘土をこねるように思い通りのかたちに導こうとしてしまいがちです。

日本では血のつながりが重視されますから、特にこの誤解は根深いようです。

けれど、子どもはどんなに幼くても、一人前の存在であり、独自のミッションを果たそうとしているたましいです。

親の役目は、子育てのプロセスで出会う課題に向き合い、自分自身が成長を遂げながら、子どもが人生の目的を果たせるようにサポートをすることなのです。

子育ては本来、とても創造的な取り組みです。親自身が子どもとともに視野を広げ、新しい世界観を身につけていくことが、子育てのおもしろさなのだと思います。



—お母さんを苦しめようとして生まれた子どもはいません—

子育てには、つらいこともたくさんあります。つい手を上げてしまったり、「産まなければよかった」と後悔してしまったりするときがあるかもしれません。

子育てが難しいケースは、お母さん自身のトラウマにあるとはかぎりません。心も手も目もたっぷりかける必要のある子どもを授かっている場合もあります。

たとえば、コミュニケーションが難しかったり、発達がゆっくりだったり、病弱だったりする子どもです。

そんなお子さんと向き合い、日々お世話しているお母さんは、本当によくがんばられています。悲しみを吐き出したり、疲れを癒したりする機会を意識してとっていかなくてはなりません。

そして、ゆとりのあるとき、ほんの少し受けとめかたを変えて、お子さんを別の視点から眺めてみてほしいのです。

赤ちゃんがどんな自分として生まれるかを決め、お母さんを選んで生まれてきた、と考えるなら、ちょっぴり肩の力が抜けるのではないのでしょうか。

お母さんを苦しめようとして生まれた赤ちゃんはいません。赤ちゃんがくれた試練の中に、お母さんを人生の新しいステップに踏み出させる何かを探してください。

重症のアトピーっ子を育てたお母さんは、こう語っています。

「赤ちゃんの頃は、本当に大変でした。眠ることもできず泣き叫ぶわが子を見ると胸が張り裂けそうでした。けれど、そのおかげで私は食べものに気をつけるようになり、ライフスタイル全般が変わりました。いまでは、みなさんに健康的な食生活を提案する仕事をしています。振り返ってみると、私は若い頃、公衆衛生の仕事をしたいと考えていました。わが子のアトピーが、私が本来したかったことに導いてくれたのです」

そのお子さんは、病気によってお母さんを後押しし、成長させてくれました。お子さんも勇気がありますが、その贈りものをきちんと受けとめたお母さんもお立派です。

いま子育てに苦しい思いをしているお母さんが、その体験から、きらりと輝く何かを得ることができるよう、私は願っています。

第3回 池川昭先生講演会「幸せな未来を生きるお話し会」

日時：令和5年7月9日（日）13：30～16：30

場所：高松和貴こども園ホール TEL.087-814-4141

参加費：無料

定員：100人先着順

申し込み先：FAX. 087-814-4143（高松和貴こども園）

TEL. 090-6283-0955（国方）

